

淡水性外来種アカミミガメは干潟生物を食べるか？

吉岡志帆・木村妙子

三重大学生物資源学部

Does the alien freshwater turtle, *Trachemys scripta*, eat tidal flats animals?

By Shiho YOSHIOKA and Taeko KIMURA

Faculty of Bioresources, Mie University

淡水性外来種アカミミガメは、在来のカメ類と比較して耐塩性が強いことが知られており、干潟においても活動する姿が確認されている。しかし、淡水性である本種の干潟における生態の知見はない。本研究ではアカミミガメの干潟生物の餌利用について調査し、本種が干潟生態系にどのような影響を与えるかを明らかにすることを目的として、野外個体の食性調査を行った。

2014年11月と2015年4月から9月にかけて、三重県津市の田中川干潟とその周辺の淡水水路において、釣り・素手・タモを用いてアカミミガメを捕獲した。

捕獲したカメは冷凍庫で凍死させ、解凍して体重・背甲長などを測定し、解剖を行った。消化管内容物の湿重量を測定した後、内容を藻類・植物・貝形虫類・カイアシ類・ミジンコ類・ユスリカ類幼虫・昆虫類・等脚類・甲殻類（タカノケフサイソガニ・モクズガニ・アカテガニ・未同定カニ類）・魚類・判別不能の14種類に分類し、分類群毎の湿重量測定と出現率を算出した。

干潟で捕獲された11個体（以下、干潟個体とする）と水路で捕獲された11個体（以下、水路個体とする）、計22個体の分析の結果、出現率は干潟個体では植物と未同定カニ類がいずれも63.6%と最も高かった。一方、水路個体ではユスリカ類幼虫が54.6%と最も高く、植物・ミジンコ類・昆虫類がいずれも45.5%と高かった。干潟個体からは未同定カニ類の他にタカノケフサイソガニ、モクズガニの甲殻類が高い割合で出現した一方、水路個体では甲殻類はアカテガニのみが出現し、出現率は4.5%と低かった。

干潟個体からは、タカノケフサイソガニ、ボラといった干潟に生息する生物が出現し、出現率はそれぞれ36.4%、9.1%であったのに対し、湿重量割合はそれぞれ1.8%、19.6%とタカノケフサイソガニよりもボラの方が高かった。出現率を比較すると、タカノケフサイソガニはボラと比べてアカミミガメの好む生物あるいは捕食しやすい生物であると考えられる。これらの干潟の生物を捕食しているという点で、アカミミガメは干潟生態系に何らかの影響を与えていると考えられる。

今回の結果から、淡水性外来種アカミミガメが干潟の生物を捕食することが明らかになったので、今後はカメ1匹当たりの干潟の生物捕食量を推定していきたいと考える。